

行雲流水

No. 3 令和3年4月1日発行

「仕事」をする上で大切にしたいこと

校長 寒河江 正人

I. 「1年の計は、4月にあり。最初が肝心。」

1. 何事も「**始まり**」を大切にしましょう！
私たち教職員も、生徒も、保護者も、地域も。
新たな「**出会い**」に感謝を！ 新たな「**スタート**」に意欲を！
2. 始まりは「**新しい自分**」になるチャンス！
人は、真摯に「**なりたいと願って目指す**」自分にしかできないものだ。
3. 最初の「**ボタンの掛け違い**」は、最後まで影響する。
決して「**こと**」を過小評価してはならない。**迅速・適切・誠実**な対応を。

II. 「教師の心が、生徒の側にある。これが肝心。」（個別最適化した指導・支援）

1. どんなに優れた授業実践のつもりでも、**生徒のつぶやき**を受けとめられなければ、そんな授業は、一人よがりの的はずれなものに過ぎない。
2. どんなに優れた生徒指導のつもりでも、**一人ひとりの違いこそが尊いこと**を理解していなければ、そんな指導は、生徒の心には決して響かないし、届かない。
3. どんなに優れた部活動指導のつもりでも、**生徒の立場**に立って、思いを巡らせなければ、そんな指導は、教師の自己満足で、生徒にとっては無意味な苦痛に過ぎない。

III. 「境界線のない仕事。この心構えが肝心。」

1. 校務分掌は、仕事を区切って隔絶するためにあるのではない。
お互いに「**のりしろ**」を意識して、「**協働**」で創り上げるためにある。
2. 学級担任・教科担任は、生徒の一番近くにいる存在だ。
全職員に生徒の「**その子の良さを知らせることができる案内人**」である。
3. 誰かの仕事と、誰かの仕事の「**間**」を、みんなが見ている。
主体的に「**間の仕事**」を見つけて、進んでつないでいこう。

「おまえが未来に出会う災いは、おまえがおろそかにした過去の報いだ」

ナポレオン・ボナパルト